

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム 赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351 (電話) 0796 - 36 - 1800		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年 2月 4日	評価確定日	平成21年2月17日

【情報提供票より】(平成20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立香住病院、山本クリニック、蔵野歯科医院
---------	-----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

荒々しい日本海の海岸から少し奥まった古き良き日本の山里を思い起こすような、大自然の中に有る小さな集落の中に「グループホーム 赤とんぼ」はある。古民家を改修した、趣の有る玄関に、基本理念である「地域に開かれたホームとし、利用者と地域住民の共生を目指します。」を掲げている。中に入ると、古民家を車椅子や、歩行器が通れるよう工夫されていた。ホーム内には、消防等の連携するシステムも有るが、隣家との付き合いを大切にすることにより、何かのときの協力を得られる環境を作っている。利用者職員の間に関わり合い関係が出来ており、冬の日の暖かな、陽だまりのような関係は、地域にも受け入れられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	利用者の高齢化に伴い、リハビリ、受診のための通院等日々の取組に追われ、具体的な改善の取組に至らなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価についても十分な取組ができず、管理者が中心となって、行なった。次回には、全職員が自己評価の意義を理解し、意識の向上に役だてていただきたい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	活動報告に対して、出席者からの意見が出され問題提起もなされている。行政の出席は、難しい状況ではあるが、開催回数を増やし、評価の結果についても報告していただきたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	利用者の生活ぶりは、家族へ定期的に報告されている。意見苦情への取組む用意はあるが、遠方に住む家族が多く、苦情などは、申し出が少ない。感謝の言葉が大半である。困難とは思いますが、家族会などの取組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域のお祭りや防災訓練には、利用者、職員共に参加し地域の一員としての役割を果たしている。雪の時期には、ホームの井戸よりくみ上げた水で、除雪を行い、近隣の人に喜ばれている。利用者家族によるコンサートなども開かれ、近隣の方々と楽しんでいる。日頃は、野菜を頂くなど憩意にしており、何かの時の力強い近所付き合いがなされている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「個人の尊厳を守る」「家庭的な環境で心身の機能低下を防ぐ」「地域住民として、共生を目指す」の三本柱が、作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員の日々の語らいの中で、理念の実践について、話されており、実践に向けて努力されている。	○	実践に向けて、さらに徹底を継続されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣との関係もよく、野菜等の提供がある。散歩の際には、見守ってくださったり、春から秋にかけての、農作業の指導をして頂く等、関わりは多い。自治会、老人会等にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者の高齢化に伴い、リハビリ、受診のための通院等日々の取組みに追われ、具体的な改善の取組みにいたらなかった。		引き続き改善への取組みを行なわれる事に期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者家族・職員・地域代表が出席されて開催され、高齢化に伴う問題点・家族との連携など、問題提起が行なわれ、次回へ持ち越された。		行政の関わりが薄い状況にあるが、今後も声かけをして、出席への申し出を粘り強く行なってほしい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	監査が年1回行なわれている。アドバイスを求めているが、回答を得るにいたっていない。		粘り強く、連携をとるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	家族訪問時に面談するほか、月1回郵送にて、利用者の写真を送り、生活の様子を報告している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	地域柄、都市に出て行った家族が多く、月1回郵送で、利用者の様子を、写真等で知らせているが、意見・要望などを聞き取る機会が少ないのが現状である。		家族が、意見や要望を表せる機会を、工夫して作って頂きたい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者との馴染みの関係を大切にするため、職員の離職対策を特に重視している。週休3日など職員の福利厚生を含めた管理者の配慮が行き届いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>利用者の介護度が上がっている状況もあり、日々の業務も増している中、研修の位置づけは不十分である。運営者のアドバイスは適宜受けているが、計画的な研修体制はできていない。</p>		<p>認知症介護は利用者それぞれの個別対応や柔軟な支援が求められるだけに職員は日々の実践を通じて学び、技術や知識を身につけることが求められる。計画的な研修の具体化が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と3ヵ月に1回、研修や情報交換を行っており、運営者が参加している。それぞれの事業所の経験や意見を交流することにより、事業所運営やサービスの質について新たな気づきが得られ、大いに役立っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族等の状況や事情ですぐの利用になるケースが多いこともあり、入居後1ヶ月間は「仮入居」という方法を取っている。入居後しばらくは帰宅願望もあるが、本人の立場を大切にしながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年長者である利用者は、それぞれの生活の中で培われた得意分野があり、職員は学ぶことも多い。介護度が高くなってきた利用者とは一緒に過ごし喜怒哀楽を共にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアを通じて、利用者の歩んできた生活を感じ取る観察力が必要と捉えている。その上で思いや意向について常に関心を払っている。夜の徘徊をとっても本人にとっては目的があることと理解し対応している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は毎月立て、一人ひとりのその時点にそった計画を作成しているが、体系的な評価の体制が弱い。また家族の意見や意向を把握し反映する形にはなっていない。</p>		<p>介護計画は、本人がよりよく暮らすための課題やケアについて、中期目標、長期目標として計画し、体系的な評価は欠かせない。そのためには職員の意見が大切である。また家族の意見や意向も反映させるための工夫もほしい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>グループホームはきめ細かいケアに特徴があり、臨機応変に見直ししていく必要性は熟知している。その視点に基づいて、時々気づき等を反映しながら見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>音楽会の開催を地域の方にも呼びかけ喜んで頂いている。日頃からの結びつきを通じて、認知症介護の中心的な担い手として、その役割を意識し取り組みを企画している。</p>		<p>過疎地域における認知症介護の拠点として、その役割を果たすことを見据え、ハードルを高くして着実に取り組んでほしい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	本人、家族の希望を全面的に受け入れ、かかりつけ医に受診する支援は事業所が恒常的に行っている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	過疎地域の特性もあり、遠方にいる家族の要望を受け入れ、ターミナル期の対応を行っている。葬儀等の相談にも対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員が家族歴や生活歴を必要以上に聞き出したり、ややもすると自分の価値観で利用者を判断するようなことは厳しく戒めている。個人情報の取り扱いには注意している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一定の生活リズムをつくる生活スケジュールはあるが、あくまでも利用者のペースを大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	LDK(リビングダイニングキッチン)でそれぞれ出来ることを分担して準備し、家族がわいわい楽しく食事する風景が見られる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一度の入浴と決めているが、希望によって対応している。夜、尿失禁のある利用者は朝の入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、花を育てたりすることは経験豊富なだけに大きな楽しみになっている。お誕生日会には大きなケーキを囲み、花束の贈呈や写真撮影が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や外出は生活にハリをもたらす一つであり、積極的に取り組んできたが、介護度が高くなる毎に困難を伴ってきている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣近所、地域ぐるみの見守り支援もあり、鍵はかけない姿勢を貫いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署による訓練は年に1回実施している。緊急通報システムも整備されている。何より心強いことは地域の消防団が編成されており地域の協力も得られやすい。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は栄養バランスを図り調理師が立てている。新鮮な野菜を豊富に取り入れ、食が進む工夫がある。水分補給も定期的に行い、医師の指示による水分制限の管理も行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家を改築して開設されているので、使い勝手もよく、我が家のリビングそのものの居心地がある。日当たりもよく床暖房が加わってやさしく暖かい。金魚を鑑賞し、季節の花や雑貨が安らぎをプラスしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室は広さや間取りに変化があり個々の居室としてふさわしい。そこに使いなれたベッドやタンスが置かれ、オゾンや加湿器も完備されて、居心地のよい居室になっている。</p>		

 は、重点項目。